

## 第2回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和3年11月24日（水）午前9時30分から午前11時45分まで
2. 開催場所 大宮庁舎 第2・3会議室
3. 出席者氏名
  - (1) 審議会委員  
田中会長、松本副会長、上田委員、櫛田委員、後藤委員、谷口委員、増田委員、丸山委員、安井委員、山田委員、  
※欠席5名（土出委員、藤原可委員、藤原哲委員、山内委員、吉岡委員）
  - (2) アドバイザー  
田中氏、藤野氏、近藤氏、河合氏
  - (3) 事務局  
教育次長 引野雅文、文化財保護課 課長 新谷勝行、生涯学習課 課長 川村義輝、  
課長補佐 坪倉武広、主任 寺田絢子
4. 内容  
別紙（会議次第）のとおり
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人 1名

### 1. 開会

事務局：

おはようございます。大変お忙しい中、また、早朝からお集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、令和3年度第2回京丹後市文化芸術振興審議会を開催させていただきます。私は進行させていただきます京丹後市教育委員会の引野と申します。それでは、開会に当たりまして会長よりごあいさつをいただきます。

会長：

おはようございます。すっかり寒くなりあられが降って冬に突入という中、お忙しい中、ありがとうございます。私のような頼りない者が会長に任命いただきましたが、素晴らしいエキスパートである副会長さんはじめ皆さんとご一緒させていただいて、松本教育長からいただいた任務を達成できればうれしいと思っております。文化芸術振興計画を策定し心豊かな市民生活の実現と文化の薫り高いまちづくりに寄与するという目的でこの会が設置され、改めて京丹後市教育振興計画を読みました。先日、「ルーツ」というイベントが旧丹波小学校の空き校舎でおこなわれ、来場者は200人ぐらいがあればいいだろうと思われたところ600人を超える方が来られたそうです。「丹後学」の取組は8年目ぐらいに入でしょうか。教育委員会が思い切った新しい教育を行っています。ちょうど今の高校生にあたる世代に「丹後学」の成果がああいう積極的な取組につながっているのだと思い、改めて、伴走する大人と教育委員会に感動いたしました。私ごとですが、ささやかですがアートでまちづくりの取組をしています。毎月第3日曜に行われる「こまねこまつり」で、陶器のねこの絵付け体験やねこのお面をつくるワークショップを神社の境内でしています。先日は、七五三の参拝者や新嘗祭やもみじまつりの参加者のうち、20人弱の子どもたちがお面づくりなどに参加してくれました。そうして過ごした時間は、地域の者にとってもとても良い時間でした。先日の京都新聞に山下副知事の記事が載っていきまして、お時間があれば読んでいただいたらと思いますけれども、「アート&テクノロジー・ヴィレッジ」の記事が載っております。記事の中には「人間なら誰しも共感できる『アート』というテーマを基盤に…」とか、「アートの力を基盤に未来社会を牽引するスタートアップ」という言葉がありました。それで、私たちはとても重要な会議にご一緒させていただいているんだと思いました。心豊かな子どもを育てるにあたり、まず、私も含めて、心豊かな大人でありたいなという思いを持ちながら、今日は会場に足を運びました。

皆さま、和気あいあいと忌憚のないご意見をいただき、実のある審議会にさせていただきますようにどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

事務局：

会長ありがとうございました。なお、本日は、土出委員、藤原香苗委員、藤原哲也委員、山内委員、吉岡委員より欠席のご連絡をいただいております。また、この会議は公開で開催しております。本日は傍聴の方がお1人ございます。会議では会議録を作成するため録音させていておりますので、ご発言の際はマイクを使用させていただきますようお願いいたします。それでは、第1回の審議会でご欠席でありました榎田委員様より自己紹介をお願いできたらと思います。

委員：

こんにちは。京丹後文化のまちづくり実行委員会の副会長であり運営委員会の運営委員長をいたしております榎田匠と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本職は、社会福祉法人みねやま福祉会の理事長で、介護施設の施設長をいたしております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：

ありがとうございました。それでは、議事録の確認者の指名ということで、本日の会議録を確認いただきご署名いただく方については、名簿の2番目に掲載させていただいております榎田様をお願いしたいと思います。次に、お配りしています資料の確認をさせていただきます。資料1といたしまして「アンケートの報告書」、資料2といたしまして「スタディーツアーについて」を配布させていただいております。配布漏れはございませんでしょうか。ないようでしたら、今から議事に入らせていただきますが、簡単に第1回の振り返りをさせていただきます。資料はございません。国の文化芸術基本法を根拠といたしまして、京都府文化力による未来づくり基本計画、また、京丹後市総合計画や京丹後市教育振興計画、そして、京丹後市文化芸術振興条例との整合性等を図りながら、長期的な視野でこの文化に関する計画を策定するということを確認いただきました。また、「文化芸術」の範囲につきましては、法律に掲げられている項目を範囲として考えることも確認をいただいたところです。また、法律では市町村において計画を定め文化芸術を推進することが求められております。京丹後市においては条例が制定されており、文化の薫り高いまちづくりの実現に向けて動き出しが始まっております。そういった中で、京丹後市の豊かな自然環境や長い歴史などの恵まれた地域資源を活かしながら、あわせて、京丹後市の抱える課題やニーズの変化への対応も踏まえながら、文化芸術施策に関するこれらの方向性を示す計画の策定について教育長の方から諮問させていただいた、ということでありました。今後のスケジュールといたしましては、答申をいただく来年の夏頃までには本日を含めて7回程度の審議会をお世話になりたいと思っております。以上、簡単に前回の振り返りとさせていただきます。それでは、議事に入らせていただきたいと思っております。ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。

会長：

議事に入らせていただきます。アンケート調査の結果報告について、事務局からお願いします。

#### アンケート報告

会長：

ただいまの内容についてご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

委員：

回収されたサンプルで地域別でパーセントが出ていますけれども、どの町も同じ数を配られてこういう結果だったのかお聞きしたいです。

事務局：

同じ数ではなくて、2000人の無作為抽出なのでまんべんなく同じ数を出したわけではないです。戻ってきた数字がこの数字ということになります。

委員：

そうするとですね、丹後町、弥栄町、久美浜町は、峰山町や網野町に比べて関心が少ないと思えるんですけども、そういうことではないということですね。パーセントの出し方がこれだけで見るとちょっと違うんじゃないかなと思いました。

事務局：

公開時には修正をして誤解のないようにさせていただこうと思います。

会長：

各町ではなく京丹後市として無作為に送られたということで、そのように公開いただきますようお願いいたします。他にありましたらお願いいたします。

アドバイザー

こういったアンケートは本当に難しいといつも実感しています。無作為で送った場合にはどうしても年代の高い方、60代や70代の方の回答率が非常に高くなり、若い人は時間がないってことがあるかもしれないし、関心がないのかもしれないかもしれませんが、だいたい極端に低くなります。この偏差もうまく係数としてかけないと高齢者民主主義みたいな結果になってしまいます。だからこれが本当に正しい客観的な分析・考察になっているかというのは、ストレートには受け取れないことがあります。無作為というよりも最初からバイアスをかけて若い人にくたくさん送ることもします。今回は若い人対象で高校生アンケートをやっていますが、例えば20代だと成人の日に合わせて実施するなどやり方もあると思います。それと、いまは京丹後市だけで分析結果を出していますが、他市との比較をしないと意味があるのかどうかというのは判断がつかないですね。ですから、まずは国でやったものは文化庁が出しているものがあります。項目が一致するかどうかという問題がありますが。それと、兵庫県がやっているものがありますし、京都府もあるでしょうかね。それから、あまり都市部と比較しても意味はないかもしれませんので、この近隣でいうと、私が近年関わったものでは豊岡市と丹波市のアンケートと比較すると京丹後市の特徴が出てくんじゃないかと思います。今後の作業でどこまでできるかわかりませんがポイントかと思っています。

それから、7ページの「現在の文化環境に満足」と回答したのは2%、「どちらかと言えばそう思う」を含めても全体の15%にとどまる、となんかちょっと自虐的な感じに書かれているんですが、まず高校生の表を見た時に12%が「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」は35%いますよね。両方足すと47%でかなり大きな部分を占めています。それに対して一般の市民が2%+13%で15%ですから3倍の違いが出ています。4年ほど前におこなった豊岡市の結果ですと、「豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思いますか」という問いに対し、高校生の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足すと44%でした。一般市民は32%でしたから12%の違いが出ていたということになります。つまり、高校生のほうが豊岡市は盛んなまちだと思う比率が高かったということです。

クロス集計で「豊岡にとどまりたい、このまま住み続けたい」と思う高校生と「文化芸術のさかんまち」と思う高校生との関係はどうなのかを見てみますと、盛んだと思う高校生では38%の人が「このまま豊岡市に住み続けたい」と答えました。それに対して「豊岡市は盛んだと思わない」と答えた高校生だと13%しか「住み続けたい」と答えてないんです。やはり3倍の違いが出ています。高校生だけが若いわけではないけど、若い人にとって芸術的に魅力がある、あるいは、多様な芸術文化に触れられるまちだと、このままこの地域に住み続けたい人の割合がそうでない人の3倍も出てるという、そういう結果があります。クロス集計で考えたほうが説得力があるんじゃないかなと思います。他市との比較とクロス集計をやってみるとよいと思います。丹波市と豊岡市のデータは持っていますし発表したことがありますから20分ぐらいいただければご報告もできるかなと思います。

会長：

大変参考になります。ありがとうございます。この後は、小グループに分かれた意見交換の方に入りたいと思います。事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局：

初めにこちらから案を提示させていただき意見を頂戴するというのではなく、委員の皆様から自由にご意見をお聞かせいただきたいと思いますと思っております。問題提起になるようなことも大事にしていきたいと思っております。皆様それぞれでお気づきの分野も違うとも思いますし、できるだけいろいろな角度から見ていただき多くの意見やアイデアを出していただければありがたいと思っております。そこで、本日は皆様のお考えをプレイストレーミングのような形で、浮かんだアイデアをざっくばらんにお聞かせいただきまして計画骨子につなげたいと思っております。レジュメの方をご覧ください。中段の方に書いておりますが10時55分ぐらいまで2つのグループに分かれていただき意見交換をしていただこうと思っております。お話しいただく内容は、最初に、京丹後市の文化振興の目指す将来像についてお考えをお聞かせいただきまして、そのイメージを共有したいと思います。次に、皆様をご存知の文化芸術関係の取組や活動されている人や団体などの情報を持ち寄っていただきまして今すでに行われている取組について情報共有をしていただきたいと思います。そして最後に、出し合っていたいた将来像やこうなったらというイメージに近づくために足りないものや取り組むべき課題の洗い出しをお世話になりたいと思っております。模造紙と付箋とマジックを用意しております。アイデアを出しながらまとめていただきまして10時55分ごろに今のお席にお戻りいただきます。その後11時から全体での審議会を再開させていただきます、各班での意見交換の様子をご報告いただきたいと思いますと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

会長：

ご質問ございますか。ないようでしたら2グループ分けをさせていただきます。A班はこの会議室でお願いします。B班は第5会議室に移動をお願いします。進行役をA班は松本副会長、B班は丸山委員にお世話になります。記録係や発表係は各班にお任せします。アドバイザーは助言等をよろしくお願いいたします。11時になりましたらこの会場で再開しますので、お席にお戻りいただきますようお願いいたします。

委員：

このあとグループに分かれて意見を出し合うわけですが、僕はB班の進行係をさせていただきます。どのような作業をするか説明させていただきます。

先日、藤野先生の本を買って読ませていただきました。勉強になりました。いろんな事例が載ってまして、どれも一朝一夕で簡単にぱっとできることじゃないと思います、本を読んでいくと希望があって、ちゃんとやればちゃんとできるんだなっていうのも分かりました。このメンバーでやるのがあと7回ということですが、京丹後らしいことができるんじゃないかなというふうに感じました。大学の時には平田オリザの授業も受けていたので、ワークショップにもいかせたらと思っています。

それで、作業としては、1つ目は「どんなまちにしたいか」という目指すところのイメージを共有するという作業です。2つ目は「具体的にどんな取組をしてきたか」という情報も共有して、3つ目に、「何が必要か」を出しあって取り組むべき課題のイメージを共有するという作業です。ここまで出るとまた次にもつながって発展的な話ができるかなと思っておりますので、この後の時間でできればと思います。40分間なので、時間の割り振りとしては1つ目に10分、2つ目に10分、3つ目に10分を割いて、残った時間で発表の準備をしていただいたらと思いますので、そんな流れでお願いします。

会長：

ありがとうございます。それでは移動をお願いいたします。

## グループワーク

(再開)

会長：

ありがとうございました。今日欠席の方もあり残念でした。時間が足りなくて申し訳ありませんが再開したいと思います。では、B班から、どのようなアイデアが出たのか報告をお願いします。

委員：

B 班は全員で発表したいと思います。3分ぐらい発表して、残りの時間は質疑応答にしようと思います。我々は山に例えて発表します。メンバーはそれぞれご覧のとおり男性も女性もいて年齢もバラバラです。

委員：

図のように、「温泉のようにボコボコと溢れ出るような」、「人が集まりやすい」というイメージを決めました。

委員：

音楽であったり民謡であったり着物だったりいろんな文化で人が集まる、そういう場所のイメージです。

委員：

子どもの頃に経験したことを繰り返していくというのが目的の一つです。子どもの頃に大人たちに混じって体験したことがすごく楽しかった思い出になっていることがいっぱいあって、それが大人になって子どもたちに教えることができ経験させてあげられるような形を作っていきたいと思います。

委員：

「繰り返す」ということで、どんなメリットや影響があるのかというところの説明をお願いします。それと、「温泉のようにずっと湧き続けて繰り返して継承していくことで、こんないいことがあります」という例をお願いします。

委員：

温泉のように熱すぎず、良い加減の温度のお湯があっちもこっちに沸いてくるイメージです。若い人が子どもに教えて、またその子どもがその子どもに教えていく、というように、継続性がある、体験しながら教えていくというイメージです。京丹後市には外国人も大勢生活されていますが、その人たちにも関わってもらって広がっていくイメージです。

委員：

2つ目のイメージに行きます。

委員：

京丹後市は廃校になった学校がたくさんあって、使っていない楽器も多分たくさん保管されていると思います。そういう物をこれからの子どもたちにつなげて活用していくことができないかという発想です。ピアノを例に挙げますと、まちの中に、「ここに行けば誰でもピアノが弾ける」という場所があって、うまい・下手の関係もなく、発表やコンサートを開催するわけでもなく、身近に弾けるということができたらいいな。聞く側も「こないだより上手くなったな」とかそういったコミュニケーションができたりするような場所というイメージです。演奏する側も「もっとかっこいいとこ見せたいな」と思ったりして、向上心につながるようなことが生まれてくると良いと思います。

委員：

この「向上心」が大事ですね。最後3つ目の課題と思う部分を発表します。

委員：

年配の区長さんとか以前に区の役員さんだった方などで、「昔はああだった、こうだった」と昔のことをよく知る人がいらっしゃいますが、「そんなことには（施設を）貸せない」とおっしゃったり新しいことをしようとするのが反対されたりするような発言があり、そういった牛耳るような人がいると、新しいことを始めたい立場からするとやりにくい時があります。先ほども話に出ました「大人から伝える」ことの中には、お宮のことや神社のお祭りごとを習うことも含まれると思うんですけど、すごく大事なことだと思っています。

委員：

「牛耳っている」ということの補足ですが、例えば、音楽を演奏している人が近所にいる場合に、「うるさい。もうやめてくれ。」と文句を言うのではなく、顔見知りになって理解をしていただけるように関係を作れるような、例えば、「この時間は大きな音がするなあ」と思えば、散歩に出るとか買い物に行くとか（家を空けるような）協力をしてくれるとか、そういう協力をしてくれるような地域社会のコミュニティになったらいいなと思います。理解してもらわないと先がありませんので。

委員

いろんな難しいこともあります。我々B班の文化振興で人が集まってきやすい場所のイメージは、「温泉」です。「そこに行くときゆったりして熱すぎない」そして、「大人も子どもも楽しめる」という「温泉」がキーワードです。無理やり掘った温泉ではなくて、滝のように「ダバダバ」でもなくて、ちょうどよく「ボコボコ」と湧いてくるぐらいのイメージです。城崎は1200年、木津温泉も1000年の歴史あるように、続いていくイメージが京丹後の文化かなというふうに話し合いをしました。

委員（A班）

我々のA班で出てこなかったのが気になった言葉は「理解」です。地域の方々に理解をしていただくための仕掛けが必要だということでは出ていなかった。思っただろうけど出てこなかったの、そのとおりだなと思いました。散歩に行っていたかとか買い物に行っていたかというのはそのとおりだと思いました。

アドバイザー

お話を聞いて、人が集まることを一番の目的に考えておられると思いました。私は豊岡市に住んでいますが、京丹後でやることは豊岡市に無関係ではなくて、京丹後で魅力的なことがあれば豊岡市からも人は来ます。人が集まることと文化施策を考える時に、対内的なことと対外的なことの両方の視点から考える必要があるなと思いました。対内的なことというのは、地域の人たちがどうやって利用してより活性化した文化活動ができるかということ、どうやって文化的活動を満足に行うかということと、市民や子どもたちが質の高い芸術に触れるための機会をどうやって作っていくかという対内的なこと、それから文化芸術を通して人を呼び込むか。これが隣の市町であったりとか観光であったり自分の住む町より良いものがあれば移住ということも考えられるので、どうやったら人を呼び込むかということや人の流れも考慮に入れていくことが大切だなというふうに考えました。

委員

ゆくゆくはそういうことも考えていかないといけないですね。ありがとうございました。

会長：

ありがとうございました。次にA班お願いします。

委員

A班は全員で発表する前提でなかったものですから、「こんな意見が出ました」というような報告を私なりに整理して発表します。3つの項目に分けて考えましたので発表します。「文化芸術振興をとおして目指す将来像」や、どんな形のどんなまちの姿を目指すか、ということをお話した中で出てきた言葉や大事にしたいキーフレーズを紹介します。まずは「多様な」という言葉です。老若男女、多様な方が活動できる環境が大事だという話がありました。それからもうひとつ、「お金」です。「お金を出してでもこのまちで文化芸術を楽しみたい」というような。お金というものを抜きにできないと思います。文化芸術は安く見られてしまうんじゃないかという心配があります。この言葉の使い方は難しいんですけど。財政的なことのバックボーンということもあるかわかりません。ここはやはり大事にすべきじゃないかという意見でした。もうひとつは「自分たちが楽しんでいくということ」。主体は誰か。自分たちが楽しく暮らしているということがとても大事じゃないかという意見でした。そのためには「気楽に気軽に誰でも参加できる」ということが大事です。気軽にできるというハードルの低さもとても大切な切り口だと思います。そして、「癒し」です。癒しがあるまち、心の隙間が埋まるまちというのは、やはり文化芸術に触れた結果、辛いこととかいろんなことがあっても心が癒されたり、心の隙間が埋まっていくと

いうことはとても大切にすることがある。というような意見が出ました。次に2つ目の「これまでに取  
り組まれていること」です。文化のまちづくり実行委員会は、オペラや、市民ミュージカルの取組も紹  
介してもらいました。「峰山音楽協会」というのがずっと以前にあって、弦楽アンサンブルがあっ  
たそうです。文芸誌、同人誌という形で文学的な同人誌をずっとやってるという動きの紹介もありま  
した。国際交流協会では、フラメンコなどの公演の取組の紹介もありました。

3つ目の「こうなったらいいな、あればいいな、もう少し足りないんじゃないか」というものでは、「芸  
術系の大学や学生との継続的なつながり」が出ました。これは単にイベントだけ行ってそこで終わり  
ということではなくて、この京丹後とその芸術系の大学の学生と継続的に関わりを持ち続けるとい  
うことでは、いろいろな良い効果ができてくんじゃないかという、そういう意見です。それから、「気軽に」とい  
うところは場所の話題になりました。ライブハウスのような100人程度の規模で、気軽に発表したりす  
るいろいろな活動ができる施設が、今の京丹後には不足しているんじゃないかと。それから「言葉」で  
す。「丹後弁」というのも、とても重要な丹後の文化のひとつと考えられるということで、言葉の文化  
を大切にするような仕掛け、たとえば丹後弁の通訳だとかいろいろな仕掛けもこれからもっとも  
重要になるんじゃないかというような話も出ました。「発信」では、SNSだとか、もう紙ベースでは物  
を見ない時代になってきているので、この発信のやり方や発信のツールについては今から特に必要にな  
ってくるんじゃないかという話が出ました。発信のやり方で先ほど申し上げたお金につながるという作品  
を購入してもらうだとかいろいろな意味で、「発信」と「お金」はつながっていくと良いというような意  
見もいただきました。それから「評価」です。評価が大事だということでした。ちゃんとできていない  
からだめだという評価ではなくて、発表や評価のやり方、評価をする人の感性、これを高めていくため  
の評価の仕組みも大事になるんじゃないかなというような意見でした。

アドバイザー：

とても興味深く聞かせていただきました。結構早い段階で「お金」というキーワードが出てきたのはす  
ごくおもしろいと思いました。活動を持続可能にしていくためには、どうしても避けて通れないアイテ  
ムなんですね。同時に「発信」もそうです。私が興味を持っているテーマのひとつに「地域通貨」があ  
るんですが、自分が使っているお金だけではなくて、地域活動を、例えばポイント制とか言っておられ  
ましたけど、貯めて何かと換えるとか、何かサービスが得られる、というような仕組みは、地域活性化  
などにもつながる仕組みについてもアイデアが出ていてすごく興味深いなと思いました。

委員：

私達が目指すまちの姿を出し合う中で、話しているうちにどんどんと「もっとこうだ」とか、「こんな  
ことはどうだろう」という意見もどんどん出てきましたし、自分たちがやっていることではこんなこと  
が足りなかったな」というのも出てきて、一番の感想は「もっと深掘りしたい、もっと話したい」で  
す。これでA班の発表とさせていただきます。ありがとうございました。

会長：

先生からアドバイス、感想をお願いします。

アドバイザー：

前回はそうでしたが、やはり皆さんが丹後のことを非常によく考えておられるという印象でございま  
す。地域の文化というのは、私は思いますのは、やっぱりその地域の特徴、あるいは地域そのものであ  
るなあとというふうには思えますしそうした面では最初も出ていましたけれども、この丹後では何を守っ  
ていくのか、あるいはそれをどう伝えていくのかというのは非常に大事だと思います。その中で、世代  
を超えたコミュニケーションは、まだこの丹後の中には非常によく残ってるんじゃないかというふうに  
思います。都心部ですとなかなか世代を超えた会話自体もございませんし、その中で特に丹後は地域  
のお祭りは昨年はコロナでなかなかできてないんじゃないかと思えますけども、世代を超えて皆さんが一  
緒になってひとつの物を作っていくという中で、人と人との付き合い方とか、あるいは先輩からいろん  
なことを教えられて、それを大きくなったらまた次に伝えていくというひとつの仕組みが昔からあるん  
だというふうに思います。私はそうしたものをぜひとも大事にしてほしいと思います。これからの時代  
はそうした人と人との交流とかコミュニケーションや会話というものが非常に大事になってくると思  
います。そうしたことで丹後地域が他の地域とまた差別化を図れて、文化によって地域の活性化にも結び

ついていくと、そうしたことが今回の審議会の中で出てくれば非常に有意義になるんじゃないかと思いました。まだまだこの丹後は魅力にあふれる地域だと思いますので、ぜひとも文化の力で発展させていっていただきたいなと思います。

アドバイザー

大変興味深い発表ありがとうございました。まずB班についてです。ずっと続いていくほどよい温度の温泉のイメージですごくわかりやすいと思いました。私も関わってきた別府で行われているアートプロジェクト「混浴温泉世界」を連想しました。これに近いイメージなのかなと思いました。この十数年おもしろい発展をしてきました。最初はかなり尖ったことだけやっていたんですが、ひきつけられた別府市民が自分たちでもアート活動をやってみようという動きになってきたんです。2回目が非常に窮地に陥ったんですが、何があったかという、ボランティアに参加していた市民が自分たちで活動を始めたので、芸術祭のボランティアがいなくなっちゃったというすごく大変なことが起きました。その代わりに、NPOの別府プロジェクトが「市民の発表の場を提供しましょう」と言ってプラットフォームをつくりました。町なかに空き家や空き地があるので、そういう場所を探して市民の発表の場ができるプラットフォームの役割をしましょうってことで、「別府アートマンス」といって今始まったところですが、もう何百という団体が年間を通じて新しい形の芸術文化活動をしながら発表できるというようなことを展開しています。と同時に、一人の作家を呼んできてかなり尖った展覧会をやるという仕組みがあります。アートプロジェクトはテンポラリー、時限的なものですよね。「サイトスペシフィック」ってことですが、ある個性的な場所をオンリーワンの場所を発見してその場の力をアートで引き出していくというような、そしてそれがまた観光と結びついていくというような展開だったと思います。ですから、この温泉のイメージで語られていたB班は、別府の「混浴温泉世界」つまりアートプロジェクト型のことを考えていらっしゃるのか、それとも、KIAC（城崎国際アートセンター）のように、拠点をまず作って地域に浸み出していくようなことを考えているのか、どちらなのかなっていうことを聞きたかったです。アーティストインレジデンスは、世界中からアートアーティストが集まってきてそこで作品制作をするというもので、拠点化が必要ですね。アートプロジェクト型か、サイトスペシフィック型か、この辺のことを知りたいなと思いました。

次のA班。いくつかキーワードが出てきて多様な環境、ダイバーシティも重要だしお金になると財政面をきちっとやろうというお話でした。地域のことを考える時に持続可能性という観点は大切だと思います。そのためには大都市圏のコンサルとか広告代理店に依存しない体質を作っていく必要があるだろうと。そしてこれは大変言いにくいんですが、初期は必要なんです。補助金、助成金から抜け出す発想とか仕組みをどうやって作っていくのか、自立する仕組みってことになります。これまでずっと「地産地消」ということが言われてきました。自立した地域経済圏をどうやって作っていくのかということですが、最近耳にした言葉で「地産地消」ではなく「地産地育」という言葉があります。「その地で育てる」ということでね、いいなあと思いました。単なる消費で終えるのではなくてその地で産まれたものを生み出したものを通して、人と町が育っていくような仕組みですね。そしてそれが社会を作り、世界ともつながっていくというおもしろい取組をしていると世界から注目されていく。おそらくそのまなざしが「自己実現＝自己満足」に閉鎖するのではなくて、まなざしをどんどん地域社会そして世界へと広めていくような仕組みが「地産地育」ってということなんじゃないかなと思います。つまり、広い視野で物事を見つめ直すようなことができるような芸術文化活動が、ダイバーシティにつながり外ものを受け入れられるような開かれた地域社会を作っていくことになんじゃないかなと思いました。あとはですね、「芸術系の学生との継続的なつながり」も、とても重要なことで本学も近くにありますから関わりが持てたらいいなと思います。気軽にライブハウスのように集まれるような、自分たちの活動が発表できる場っていうのは「オルタナティブ・スペース」と言いますが、こういうものが地域の中に埋め込まれるようになれば、新しい場所を作るというのはそれらのリノベーションでできるとは思います。それから、「言葉」の文化を大切にすることともとても重要だなと思いました。一番重要なのは、伝統的な文化資源がこの地域にはたくさんあると思うんだけど、それが何かこう古臭いイメージにとらわれないようにするために、B班で言われたように、昔からの規制でがんじがらめになって邪魔になるというようなことから脱却しないといけないと思います。伝統的な文化資源が古臭いイメージから脱却できるための触媒みたいなものがなくて、その触媒は、例えば現代アートだったりパフォーミングアーツだったりするんじゃないかというふうに思います。ありきたりの話なんですけども。皆さんのお話、大変魅力的だなと思って聞かせていただきました。



委員：

B班へご質問いただいた点があったので、ファシリテーションをしていた僕の感想ですがお答えしておこうと思います。拠点なのかプロジェクトなのかというご質問でしたが、両方どちらもいいとどろりかなと思います。拠点としては、話をまとめながら岐阜の「ala」をイメージしていました。プロジェクトとしては、大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」2回目とか3回目の「こへび隊」が地元の人と積極的に関わったりしていて地元側もすごく良い雰囲気です。やった頃のイメージでした。そこも温泉がありますし、「人が集まりやすい場所」というのがキーワードで一番最初に出たので「ala」のようなまちの文化拠点が丹後にもあるといいのかなと思いました。

会長：

いろいろな情報を知っておられるので、ワクワクしながら興味津々で聞かせていただきました。今日のキーワード、またそれぞれでお帰りになってから検索してください。他にご意見とかご質問とかありませんでしょうか。時間が足りないですが、またこういったことができるとうれしいと思います。それでは議事を終了し事務局にお返しをさせていただきます。事務局よろしく願いいたします。

事務局：

本当に貴重な意見をたくさん出していただき発表いただきましてありがとうございます。今日のご意見も踏まえて計画の骨子案を提案していくということになります。話がまとまるのかちょっと分かりませんが、今日いただいたキーワードがありましたので、きちっとまとめさせてもらって、最後までこの今日の言葉っていうのは持ち続けていかなければいけないのかなと思いますので、計画の中にも入ってくる言葉もあると思いますし、今日の視点を今後も踏まえて議論いただくということになるのかなと思います。次の、その他のところで事務局から連絡をお願いします

事務局：

12月11日（土）に「京丹後市公共施設見学スタディーツアー」と題しまして、藤野アドバイザーのご協力をいただき文化政策を学んでおられる芸術文化観光専門職大学の学生さんに京丹後市内の公共施設を見て回っていただく準備を進めております。時間が限られておりますので8施設のみですが、外からの目で施設の良いところや改善の必要なところを発見してもらうことをねらいに実施させていただこうと思っております。学生さんの側からは、文化芸術の現場を実際に訪れて課題や解決策について学びを深めていただきたいというねらいもございます。次回の審議会で報告をさせていただければということで予定をしておりますのでご承知おきいただきますようお願いいたします

事務局：

皆様から何かございましたらお願いします。

副会長：

公共施設見学の「スタディーツアー」、ぜひ参加してください。いろいろな視点で新しい学びと気づきがあると思います。先日、会長と事務局と専門職大学に伺いましたが、専門職大学の見学はぜひおすすめしたいと思います。とてもすばらしい環境です。なんで兵庫県にあって京丹後にないんだろうかと驚かれます。新しい学びになると思いますのでぜひ学校の方に相談したらと思います。教育委員会の方で取りまとめていただくようなことも良いかと思います。要望を聞くような形で考えましょうか。

事務局：

ありがとうございます。見学もまた検討させてもらえたらと思います。次回の日程ですが、1月24日（月）午後はいかがでしょう。今日ご欠席の方もおられますので確認いたしまして、できれば午後からということで候補としてお願いできればと思います。それでは、以上を持ちまして閉会に移りたいと思います。閉会あいさつを松本副会長よろしく願いいたします。

副会長：

予定した時間を過ぎましたがまだまだ話し足りないという思いがあります。文化芸術の範囲はとても広

いので、本当に短い時間で言葉やキーフレーズを拾い上げてくる作業は本当に大変だと思います。今日私たちの班で「市民の人たちとこういうことがやりたかった」という意見がありました。これからこの審議会がどういう方向で市民への周知とか、市民と一緒に作るというプロセスをどうしていくかというのは、もう少し検討の余地があるかと思います。いずれにしても来年夏を目途に答申を出すスケジュールを進めてきたいと思っていますけれども、まだまだ足りないという意見など、どしどし忌憚のない意見を出していただきたいです。肝心なのは本当により良い答申にしていくように、それをもとに本当に京丹後の文化芸術がうまくいくような、そんな計画づくりができるのが目標ですので、あくまでもスケジュールはスケジュールですけれども、審議会の委員の皆さんにはこれからもいろいろ積極的にご意見を賜りたいと思っています。アドバイザーの先生方も本当に今日はありがとうございました。ぜひ、大学見学もまたお世話になりたいと思います。それでは、次回の日程につきましては調整していただきましてこれからも引き続きよろしく申し上げます。今日は本当にありがとうございました。